

留萌川水系河川整備計画[部分改定](原案)に寄せられたご意見について

- 縦覧期間 平成17年11月18日～平成17年12月1日
- 縦覧場所 留萌市役所、留萌開発建設部本部および開発事務所
- 提出意見数 留萌市内在住の男性(71歳)からの1件

留萌川水系河川整備計画[部分改定](原案)に対して寄せられたご意見について、河川管理者である北海道開発局の考えを以下にお示します。

なお、頂いたご意見については、意見項目毎に段落を分け、段落番号を付した以外は原文のまま記載しております。また、河川管理者の考えについても、意見項目毎に記載しており、文中にある『 』(P. ○○)等は、河川整備計画[部分改定](案)における記載箇所を表しています。

寄せられたご意見

留萌川水系河川整備計画[部分改定]に対する提言

2005.11 於 留萌開発建設部 治水課

日頃の業務遂行並びに今般のお役目ご苦労様です。当方かねがね、まちづくりや文化と自然環境、地域行政の諸問題について関心を持ち、近い将来の市民運動に繋げる為の一環として、少数での細やかな会合乍ら、市に対して過去 6 年前より、折に触れて時々提言させて貰っている者です。お蔭様でこれ迄に取り上げられた提言も、概ね 6 件程の実現をみて、大いに意を強くし感謝して居ります。

この度は、貴建設部の開かれた試みに対して意気に感じ、個人としてではありますが、忌憚なくその所信の一端を述べてみたいと存じますので、ひとつ宜しくお願い致します。

① そもそも留萌川水系のみならず、古来より河川の重要性に鑑み、概念的には漠然と何となく理解しているつもりですが、留萌市の場合、日頃、日常生活の中にそれほど密着している場面もありません。又、市街部に近い下流域では、過去の河川改修の影響により流れが直線的になって以来、危険水域の要素も強まり、子供達や市民を更に遠ざけてしまう要因になったと云っても過言ではない様な気がします。

従って自ずと関心も薄れているでしょうが、そうした時に、中流域での「水辺の楽校」等の試みは画期的で、大いに期待すべきものがありましたが、思った程には市民の関心が少ない様で惜しまれます。よく内情を知らずして、言及するのおおごましい訳ですが、矢張り整備と維持管理・運営に係わって問題が大きいのでしょうか。まあ行政と民間・地元とが連携して組織体を立ち上げ、季節的にでも観察会やイベント等を重ね乍ら、利用状況や成果を時々発表して啓蒙を続ければ、もっと違った推移が見られるのではないかと思います。如何でしょう。

更に、管轄違いでしょうが、市と連携してよく調査の上、他の支流水域にも逍遙地としても実験的に設けてみる(例えば、バンゴベの沢の本流から1km以内に計画し、水域の強さに見合った軽便な水車の設置等も試みる)等は如何でしょう。子供達や市民の憩いと生涯学習、新しい趣味の開拓等をも視野に入れた場の設定により、自然と文化のマッチした環境づくりが、拡がってゆく切っ掛けになると考えます。

市の「まちづくりの長期総合計画」では、どうも「中心市街地の経済優先」の印象を免れ得ず、当時の国の施策の方向上、やむを得ないものもあったかと思いますが、その前に「主体的なビジョン」というものが、稍力不足との印象を否めません。従って、周辺地帯の景観とか自然と文化との関わり迄には、目が届いていない訳です。それ故に、開発局からの「ひと押し」に期待するのも、無理からぬところと思うのです。

② 次は最重要課題としての位置づけになるやも知れませんが、上流域での水質が結構清流であるのに対し、中流域のどの辺りからか泥流になってしまう事が、どんな自然環境の所為なのか、素人ではよく分かりません。出来れば一級河川の名に恥じない川になって欲しいと思うのは、皆同じでしょうが、専門的に見ても無理な難題なのでしょう。又問題は別ですが、下流域の某所では、つい数年前まで油濁が見られ、付近に強い異臭が漂っていた事は、疾っくにご承知かと思いますが、その油類を川に投棄した事業所に対して、法的にどんな処置が為されたかは知る由も無いものの、最近では異臭も薄まっているので、ほっとしてはいますが。

③ 第三点として、下流域の国道緑(河川敷?)整備の件があります。これは行政的に照らしてどう考えれば良いのか、素人としてはよく分かりかねますが、一市民の立場から率直に云えば、環境整備の一環としては、もっと文化的視点に立った設計にならないかと云う事です。市民の為の憩いの場として、景観に配慮・工夫している様子は勿論感じられますし、街路樹とは異なる植込みや石組み、また花壇の造成等も、従来よりは新鮮な感覚でデザインされ、目に訴えるものも感じられます。故に一応のスポットとして好感をもてますが、今後どの様な計画が盛られているのかは、市民サイドでは情報も無いので全く知りません。

今後、行政と民間活力の接点や窓口が明確に開かれる様になれば、民間サイドの色々なタイプからの、積極的な協力や参加が、得られる時が来るのじゃないかと思いますが如何でしょう。

一方、居住区の環境美化等に関しては、端的に云ってこれ迄、町内会や他の単位からの善意によるゴミ拾い等、殆ど定着しつつある様ですし、又イベント等もそれなりに親しまれて居りますが、もう一步物足りないのは通常何も無い時の、文化的雰囲気希薄であるという事なのです。

ですから今後、この長い河岸敷地をよく調査の上、官・民セットのプロジェクトを立ち上げて、ミニ公園的なイメージを膨らませ乍らテーマを定め、要所要所を拠点として、例えば〇〇コース等とのネーミングを元に、バランスをとりながら、モニュメントとしての文学碑(歌碑や句碑など)や彫像を建てる、更にはカリオン、或いは風車的なモビル等々と年次計画的に順次設置していく。やがて市民の憩いの場として、文化的な空気が自然に漂ってくればしめたものです。

そのことによって当然、河川への認識や愛着も高まってくるでしょうし、ゴミのポイ捨ても減るでしょう。ひいては長いスパンで見れば、自ずと経済的効果へ繋がる事になると強く考えるところです。グローバルに見ても、今や文化が経済効果をもたらす時代です。まあ大変長くなりましたが、悪しからずご検討の程、宜しくお願い致します。

寄せられたご意見に
対する
河川管理者の考え

①留萌川下流部は、高水敷が狭いために利用可能な面積は非常に少ない状況にあります。今後も引き続き、『関係自治体や地域住民のニーズ及び留萌川が持つ歴史・文化を踏まえ、人々が川とふれあい親しむ水辺空間を整備(P. 11)』していくよう努めます。

「幌糠水辺の楽校」につきましては、『河川とのふれあいや環境教育の場等の整備(P. 33)』として事業を位置づけており、地元町内会、小・中学校、留萌市と連携して整備を行っているところ
です。

今後も河川空間の整備に当たっては、地域の方々や留萌市等の関係機関と連携・調整を図りながら進めます。

また、毎年、地域の小中学校を対象に「幌糠水辺の楽校」等を利用した川の自然観察会等のイベントの開催や、ホームページ等を通じた情報発信を行っておりますが、今後も、このような留萌川を知り、親しみを持ってもらうための活動に努めます。

② 留萌川の水質につきましては、濁りの指標となるSS(浮遊物質量)の値は下流になるにつれ高くなる傾向はありますが、年間を通して河川水質の目標としている環境基準値を概ね満足している状況です。

今後も、留萌川の良好な水質を満足するため、自治体をはじめ流域全体で生活雑排水対策を行うとともに、河川水質の目標値を設定し、監視・指導していきます。また、自動水質監視や定期的な水質観測を行い状況を把握するとともに、万が一水質事故が発生した場合には、関係機関で組織する「一級河川環境保全連絡協議会」等を通じて情報を共有し、『その被害を最小限にとどめるため、迅速かつ適切な対応(P. 40)』を行っていきます。

なお、水質事故についてですが、油などの流出事故により川を汚した場合には、その処置に要した費用や経費は、原因者が負担することとなっています。

③ 留萌川下流部は、市街地に近く散策等に利用され、住民の憩いの場となっています。また、ラブリバー制度の認定を受け、市民団体による河川清掃も積極的に行われているほか、緑の回廊づくりや河川区域周辺の公園整備も行われているところ
です。

今後も『河川利用に関しては、適切な情報の提供を行う(P. 11)』とともに、『河川公園等の河川環境の整備にあたっては、留萌市等の関係機関との連携を図り、河川利用の多様化、近接施設等の周辺環境及び身障者・高齢者の利用等を勘案し、計画的に実施する(P. 33)』よう努めます。

また、同様に河川の維持管理に当たっても、『地域の人々へ様々な河川情報を発信するとともに、地域からの河川整備に対する要望を集約し、住民参加型の管理体制を構築(P. 40)』するとともに、『地域の人々の河川に対する愛護精神を啓発するほか、川に関する市民の様々な取り組みを支援(P. 40)』して参ります。